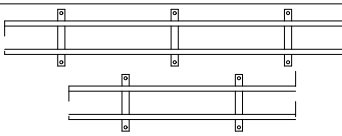
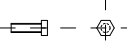
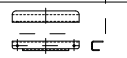
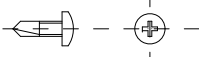
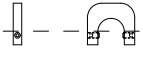
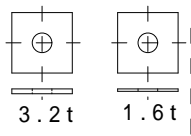
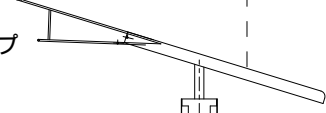
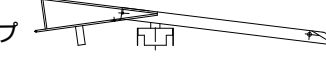

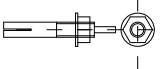
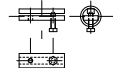


1. 機材の確認

(1) 施工者が準備するもの

- インパクトレンチ(17mmソケット、+ドライバービット)
- ハンマードリル(コンクリートドリル 10.5 M10オールアンカー穴あけ用)
- スパナ等(10・17・19)
- 六角レンチ(3mm)
- 水平器(できればレザ-水平器)
- スケール
- ハンマー(3ポンド以上)
- コードリール(100Vの電源)
- 掃除機、ウエス、掃除用具

(2) 出荷基本セット

	名称	形状	備考
1	レール1式 (標準レール L=1,800、 調整レール、 ジョイント金具付)	L=1,800 	
2	ジョイント用ボルト (M6x20)		
3	エンドプレート (1ラインにつき2ヶ)		
4	タッピングビス エンドプレート用	4 	
5	中間ストッパー (図面上必要に応じて)	12t 	
6	調整ライナー (アンカー穴1ヶにつき、 3.2t 3枚、1.6t 2枚 但し1ライン5M未満の 場合は、各々2枚)		
7	駐輪ユニット1式	Hタイプ  Lタイプ  Fタイプ 	
8	アンカーボルト (オールアンカー C-1060トブメッキ、 アンカー穴数+2%)		
9	予備ジョイント金具1式		
10	予備クッション (ユニット数の10%)		

2. 機材の搬入

(1) 搬入スペースの確保

設置エリア内に障害物がないようにして下さい。

設置箇所には、出来るだけ機材を置かないよう、通路部分に搬入して下さい。

(2) 搬入 レール・駐輪ユニット・工具類を建物等に接触しないよう注意しながら搬入します。



注1 駐輪機設置箇所に、機材等を置くと作業がやりにくいです。

注2 レールセンターラインは目安です。実際にユニットを置き、壁(障害物)との隙間(最低20mm)を確認して設置して下さい。

注3 ()寸法は、SRK-4(前後式FLタイプ)の場合です。

3. レールの設置

(1) 仮置き

平面図に従ってレールを配置していきます。

全体の配置に間違いが無いが平面図と確認した後、レールのジョイント部を挿入し連結していきます。

(2) レールのジョイント

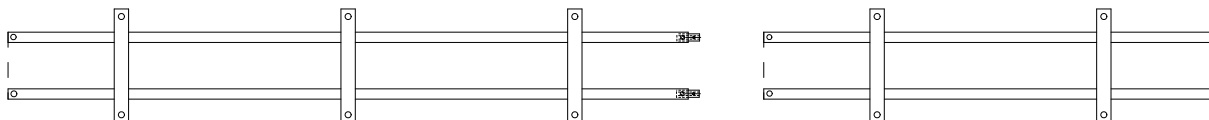
ジョイント部挿入に際し、入りにくい場合は、ジョイント金具固定セットボルトを少し緩めて下さい。

レール挿入後、片側の穴よりM6ボルトをセットし、全てのボルトを締めて固定します。

この時、隙間・段差の生じないように、しっかりと固定してください。

<テクニック1>

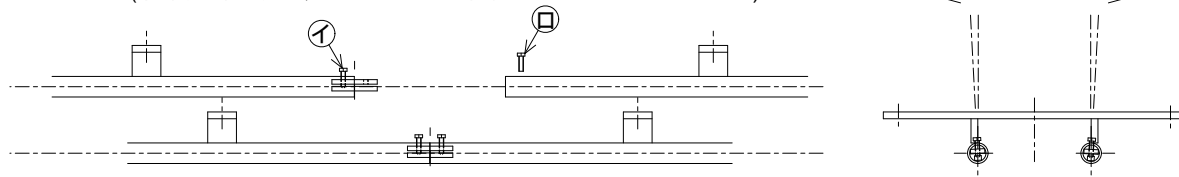
ジョイント部のボルトが締めやすいように、レールを裏返しにして、3本程づつ連結していきます。



<テクニック2>

ジョイント部のボルトは、やや外寄りに固定します。

(内側に傾くと、ユニットと干渉する恐れがあります)



ジョイント金具のイのボルトを少し緩め、

レールを差し込みます。

付属のボルトロを締めていきます。

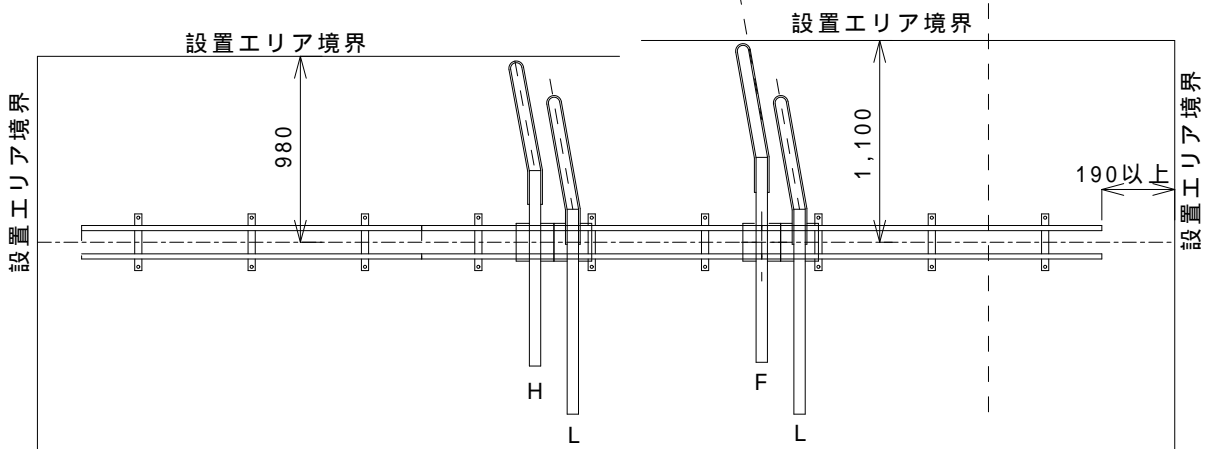
(3) 位置の確認

レールを裏返し(元通り)、設置エリア境界からの位置を確認しながら正確に配置します。

目立たないケガキ、水系を使うと便利です。

ユニットを実際に入れてみて、壁や障害物との隙間が十分(20mm以上)あるか、確認してください。

ユニット挿入のため、左右どちらか(右が望ましい)に190mm以上のスペースを確保しておいて下さい。



(4) アンカー穴あけ

レールのアンカー穴をゲージとし、安全に注意しながらボルト穴をあけて下さい。

掃除機があれば、粉塵を吸い込みながら作業すると良いでしょう。

適宜、アンカーボルトを挿入し、振動によるずれを防ぎます。

使用コンクリートドリル 10.5 深さ60mm以上

(5) レベル調整

レールに荷重をかけた状態でレベルを確認して下さい。

レベル調整ライナーを使って、左右方向の水平を出します。

前後方向も水平が基本ですが、床勾配とラックとの位置関係で、多少調整して下さい。

床勾配により、25mm以上ライナーを挿入しなければならない時は、アンカーボルトを長いものと交換します。(基本セットでは、L=60のボルトのみです。長さ不足が予想される場合は、事前にご相談下さい)

(6) アンカーボルト固定

平座金、ナットをボルトにセットし、ネジが2山程度出た状態で穴に挿入します。

3ポンド以上のハンマーで、突出部が完全に沈み込むまで叩き込んで下さい。後、スパナ等(17mm)で締付けて下さい。

4. 駐輪ユニット挿入

(1) 平面配置図と照合しながら順番に挿入していきます。

(2) 図面上「H」はハイタイプ、「L」はロータイプ

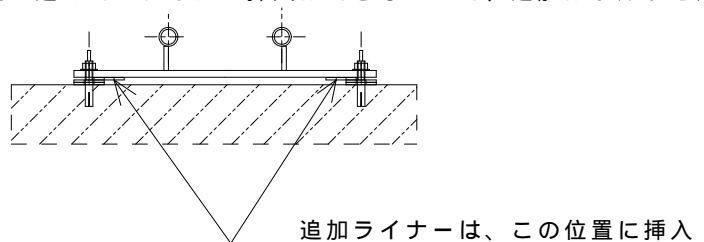
(3) 挿入後、ユニットの動きを確認します。

静止状態で、自然に動き出さないこと。

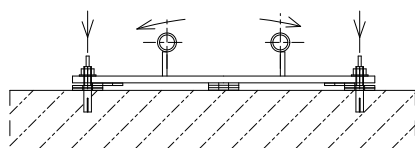
動かすときは、指1本で軽く動くこと。

アンカーの締付け具合やライナーの挿入の仕方によっては、歪が生じる場合があります。動きに問題があれば、微調整を行って下さい。

(イ) 自然に動き出すときは、水平が出ていません。ライナーで際調整して下さい。この時、アンカーボルトに差し込んでのライナー挿入はできないので、追加はボルトを避けて行います。



- (ロ) 動きが重いときは、前後方向の歪が考えられます。レールベースプレート中心にライナーを挿入して歪を調整して下さい。



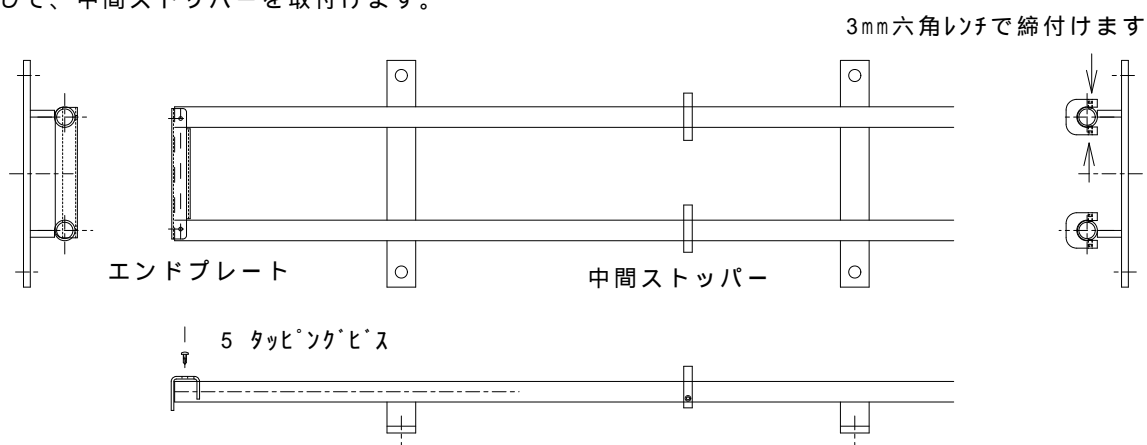
中心を持ち上げるようにすることにより、レールが前後に少し広がります。

駐輪ユニットカバーの緩衝クッション確認

運搬時に緩衝クッションが損傷又は脱離することが予想されます。この場合、予備クッションと交換して下さい。

5. エンドプレート・中間ストッパー取付

- (1) ユニットの挿入し、微調整が終わったら、エンドプレートを取付けます。
- (2) 必要に応じて、中間ストッパーを取付けます。



< 中間ストッパーの目安 >

境界が壁面の場合、自転車ハンドルが壁面に接触しないようにします。

また、1ラインのユニット数が多い場合、20～30台ごとに仕切って、移動を制限します。

6. 清掃・後片付け

周辺の清掃はもとより、駐輪機事態の汚れ等も拭き取ります。

7. 確認

最後にもう一度、台数、動き具合等の確認・点検を行って下さい。